

新年のご挨拶

(一社)日本マテリアルフロー研究
センター
会長
大庭 靖雄



新年あけましておめでとうございます。

昨年は、年の初めから、新型コロナウイルスの感染拡大という問題が、社会全体に大きな影響を及ぼした年でした。感染を防止するために、日々の衛生管理の活動が広くいきわたり、同時に、感染リスクに触れないようにするために、多くの人との接触や、気密性の高い場での活動が抑制され、静かな停滞という時間が長かったようです。感染拡大は、第一波、第二波と繰り返され、我が国のみならず、世界的な規模で、貿易額の減少、GDPの減少をもたらし、経済活動にまで深刻な影響を及ぼしています。

私ども、日本マテリアルフロー研究センターも、この問題により大きな影響を被りました。多くの参加者を得て行う行事が難しくなったため、例年5月に実施していた「アジア・シームレス物流フォーラム」はできなくなりましたし、8月の定時総会も、できるだけ書面によって議決権を行使して頂き、会員が一堂に会するパーティーは開催できませんでした。

しかし、そのような状況の下においても、センターの活動を充実させていくために多様な取り組みを行いました。「アジア・シームレス物流フォーラム」は、時期を12月に変更した上、WEBにより、3日にわたるセミナーを行う方式に変更して実施しました。また、人材育成に役立てて頂いているロジスティクス検定合格講座も、WEBによる受講ができるようにして、ご利用頂いています。

センターの活動について指針を得るため、会員に対してアンケート調査を行いました。その結果を受けて、理事会において、センターの発信力を高めるような活動を進めることを審議して頂きました。センターの調査・企画委員会を事業開発推進会議に改組し、経営工学会の松川会長にリーダーになって頂きましたし、経営工学会との間で、セミナーなどを連携して行う体制を整えることにいたしました。経営工学の研究成果が実業の分野で生かされ、産学双方にとって意義のある活動につなげたいものだと思います。政府が支援策を用意しながら進めようとしている施策にも、成果を出せるような活動ができないものか、関係者の意見を聞きながら進めたいと思います。

政府は、現在、新しい総合物流施策大綱の策定作業を進めておられます。会員から、この新しい大綱に対する意見を出してもらい、それをまとめて、国土交通省と経済産業省に提出いたしました。新型コロナウイルスの感染拡大は長期に及び、その元で、国民生活も経済活動も大きく変化し、それが新しい潮流となってきました。非接触型、省力型のロ

ジスティクス、感染症や災害に対応するBCPの備え、世界の中で重みを増すアジアにおける物流の発展。これからの物流の重点課題が見えてきています。

政府は、様々な事業活動を下支えることに加え、停滞した活動を活性化するための様々な政策に力を入れておられます。その効果が感じられるようになってきています。並行して、新しいワクチンの開発が世界各国で進められています。確かなワクチンが開発され、広く利用できるようになるまでにまだ時間を必要とするかもしれませんが、今後に明るさが灯ってきていることは確かだと思います。

新年は、このような成果が実を結び、静かな停滞を脱皮する転換の年になるものと思います。7月からは、東京オリンピック、パラリンピックが開催されることも大きな出来事です。国民生活、経済活動が、力強さを取り戻し、明るい年となることを皆様とともに祈りたいと思います。

私ども日本マテリアルフロー研究センターの活動にご理解を頂き、引き続き積極的なご参加とご支援を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。